

市民からのお便り (親子クイズ) 1人でうーんと考えていたら、主人と子どもが助けてくれました。

市民からのお便り (親子クイズ) 毎月楽しみにしている親子クイズです。頭の体操となり楽しくてきました。

我が町の消防団 part. 2



南国市消防団岡豊分団八幡班の皆さん

私たちは岡豊分団八幡班は、笠ノ川・小蓮・八幡・定林寺・滝本・蒲原を担当しています。団員は15名で、昔は農協の職員や農家が多かったですが、今はサラリーマンがほとんどです。最年長は63歳で、最年少は36歳、平均年齢は40台半ばぐらいではないでしょうか。

訓練は毎月第1木曜日の午後6時半からで、器具の点検や、国分川の河川敷で放水訓練をしています。平日の夜の訓練にもかかわらず、毎回10人ほどは集まり、訓練の後はみんなで食事を

するなどして交流を深めています。各地区に最低1人は消防団員がいるので、各地区の消火栓の位置は必ず把握しておくように徹底しています。火事が発生した時は、まず消防団員が現場に駆けつけて一番近い消火栓をすぐ開け、団の消防ポンプ車のホースをつないで消火を行います。消防士の方々もそれを知ってくれているので、初めから一番近い消火栓は避けて、少し離れた消火栓にホースをつないで、そこから走ってきてくれています。

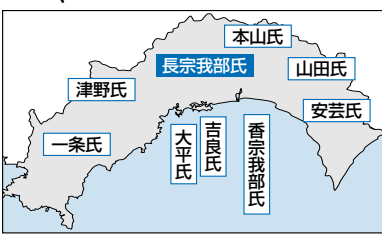
有事の際の消防団員は、現場で消防士と同じように危険と隣り合わせの活動をしています。消防団に入る時はほとんど無理矢理入団させられることが多いです(笑)が、訓練をしたり実際に出勤したりするうちに、住民の生命と財産を守るという使命感を持つようになりますね。

地区の中には、将来消防団への入団を希望している子どもさんがいるとのこと。人命救助や地域への奉仕の大切さというものが、着実に次の世代へ受け継がれているということを感じました。

に  
こ  
こ  
ら  
い  
フ  
170



なんこく歴史散歩 第22回



土佐の勢力図

土佐の戦国時代



山城概念図

土佐では戦国時代になり、細川氏が守護代としての力を弱めると、京から幡多郡中村に下向した一条氏の他、土佐の七守護と称される高岡郡半山(津野町)の津野氏、蓮池(土佐市)の大平氏、吾川郡弘岡(高知市春野町)の吉良氏、長岡郡本山(本山町)の本山氏、岡豊(南国市)の長宗我部氏、香美郡山田(香美市土佐山田町)の山田氏、香宗(香南市野市町)の香宗我部氏、安芸郡(安芸市)の安芸氏らが土佐の覇権を争っていました。こうした有力者やその家臣達は、領地を守るために各所に城館を築き、攻防を繰り返していました。

県内には中世の城館跡が648カ所あり、市内には47カ所あることが分かっています。

城という点、高知城のような石垣に覆われた城を思い浮かべますが、そうした近世の城とは異なり、中世の城館は、土を削ってつくる

土の城と言われ、田村城のような平地に造られる平城と、岡豊城のような山の上に造られる山城とがあります。

平城は、土佐では土居と呼ばれていることが多く、地名や地割などにその痕跡を残しています。

山城は、土地を削って平坦にした「曲輪」、人の移動を制限するために溝状に掘った「堀」、掘った土を盛り上げた「土塁」の3つの要素から成り立っています。中世の山城には当時の建物は残っていませんが、これらの遺構の組み合わせ方を見ることが、城ごとの特徴を読み取ることができます。

市内に残る中世の城館跡の多くは、守護代細川氏や長宗我部氏関連のもので、次回からその一部を順番にご紹介します。

※お問い合わせは生涯学習課文化財係(☎880・6569)まで

親子クイズ 508

Q 次のAとBの間には共通の関係があります。

□に1文字ずつ当てはめて、空欄を埋めてください。

※①～③はカタカナ、④は漢字

|          | 【A】   | 【B】    |
|----------|-------|--------|
| (例) にわとり | ..... | ひよこ    |
| ① □□     | ..... | いくら    |
| ② カエル    | ..... | □□□□□□ |
| ③ ぶり     | ..... | □□□    |
| ④ 小泉     | □□□   | 小泉 孝太郎 |

【第507回解答】

【第507回当選者】

|      |     |     |              |
|------|-----|-----|--------------|
| ①ア：+ | イ：× | ウ：- | 岩内 真由美 (領 石) |
|      |     |     | 岡崎 恵子 (岡豊町)  |
| ②カ：8 | キ：1 | ク：9 | 小松 孝 (比 江)   |
|      |     |     | 土居 真弓 (十 市)  |
|      | または |     | 山本 結愛 (国 分)  |
| カ：9  | キ：1 | ク：8 |              |

■応募締切/9月16日(火)必着  
■あて先/〒783-8501  
南国市大堀甲2301  
南国市企画課「親子クイズ」係  
\*はがきで応募  
■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数/79通 ★正解率/77%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

親子クイズ 44 人権学習シリーズ

子どものスマートフォンに関するニュースを見ました。子どもの43・3%が9歳以下でスマートフォンを利用を開始し、24%が3歳以下で利用を開始していたとの調査結果です。使用・所有させた理由として1番多かったのが「子どもにせがまれた」で、その他は「知育系コンテンツ(注)」。「自分が他のことで手が離せない」「公共の場で静かにさせるため」などでした。

我が家にも4歳の娘がおり、時々スマートフォンで動画などを見ています。理由も調査と同じで、家事などで手が離せない時や、病院などの公共の場で静かに待たせる時などに利用しています。

その他の用途では利用させていませんが、子どもにとっては、ずっと見ていたいものらしく、見たいと駄々をこねて泣きじゃくるので、「子どもにせがまれた」との理由は共感できます。

しかし、子どもへの悪影響も心配ですので、あまり見せないようにはしています。別の記事でも「目が近視になりやすい」「親子の会話や、目を合わせるなど、親とのふれあいが少なくなる」など、気になることが書かれていました。さて、スマートフォンなど、最近便利なのが次々と発明され、

普及していますが、問題も発生しています。最近爆発的に普及しているライン(スマートフォンでメッセージを送ったり音声通話ができるもの)では、通信が便利になり過ぎて逆に負担になっていないでしょうか。子ども達はすぐに新しい機能を使いこなしますが、多くの大人はついていけず、問題に気付きにくくなっているのではないのでしょうか。また、問題の対策ができて、その頃には次の新しい機能ができ、新たな問題が発生するかもしれません。

しかし、これらの便利な機能は我々大人が作ったものですので、大人の責任としてきちんと対応していかなければならないと思います。

(注) コンテンツとは「内容」「身」という意味の英単語。

\*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは人権啓発広報委員会(☎880・6569)まで